

群馬県立県民健康科学大学 診療放射線学部 3つのポリシー

● アドミッション・ポリシー

I. 求める学生像

群馬県立県民健康科学大学では、大学の理念・目的を達成するために、次のような学生を求めています。

<両学部共通>

1. 豊かな人間性を培い、人間への深い関心と理解を示す人
2. 自立を目指し、自ら学ぶ姿勢を持つ人
3. 他者との関わりを通して成長できる人
4. 保健医療専門職を目指す者として、専門的知識や技術の獲得に意欲を示す人

<診療放射線学部>

1. 診療放射線学を学ぶ明確な目的と強い意欲を持つ人
2. 診療放射線学を学ぶために必要な基礎学力、論理的思考力、判断力、表現力を持つ人
3. 知的好奇心と探究心を持ち、専門性と幅広い教養を身につける努力ができる人
4. 多様な意見を尊重し、他者と協働して課題解決に取り組めるコミュニケーション能力とリーダーシップ、倫理観を持つ人
5. 診療放射線学の学問的な発展を通して地域社会及び国際社会への貢献を目指す人

II. 入学前に身につけてきてほしいこと

1. 語学、理数系科目を中心とした幅広い基礎学力
2. 様々な課題解決に必要な思考力・判断力・表現力
3. 他者との協働、連携に必要な協調性・リーダーシップ・行動力
4. 医療人を目指す者として必要な責任感・倫理観・向上心

Ⅲ.入学者選抜の基本方針

1. 一般選抜

- 1) 大学入学共通テストにより、語学、理数系科目を中心とした基礎学力を評価します。出願書類により、幅広い基礎学力を評価します。
- 2) 大学入学共通テスト及び個別学力検査等（面接試験）により、様々な課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を評価します。
- 3) 個別学力検査等（面接試験）及び出願書類により、他者との協働、連携に必要な協調性・リーダーシップ・行動力を評価します。部活動、生徒会活動、課外活動（ボランティア活動など）の実績、並びに資格・検定試験等の成績を評価します。
- 4) 個別学力検査等（面接試験）及び出願書類により、医療人を目指す者として必要な責任感・倫理観・向上心を評価します。

2. 学校推薦型選抜

- 1) 出願書類及び小論文試験により、語学、理数系科目を中心とした幅広い基礎学力を評価します。
- 2) 小論文試験及び面接試験により、様々な課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を評価します。
- 3) 面接試験及び出願書類により、他者との協働、連携に必要な協調性・リーダーシップ・行動力を評価します。部活動、生徒会活動、課外活動（ボランティア活動など）の実績、並びに資格・検定試験等の成績を評価します。
- 4) 面接試験、出願書類及び小論文試験により、医療人を目指す者として必要な責任感・倫理観・向上心を評価します。

3. 社会人特別選抜

- 1) 出願書類及び小論文試験により、語学、理数系科目を中心とした幅広い基礎学力を評価します。
- 2) 小論文試験及び面接試験により、様々な課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を評価します。
- 3) 面接試験及び出願書類により、他者との協働、連携に必要な協調性・リーダーシップ・行動力を評価します。社会経験から身に付けたリーダーシップ、協調性、並びに資格・検定試験等の成績を評価します。
- 4) 面接試験、小論文試験により、医療人を目指す者として必要な責任感・倫理観・向上心を評価します。医療の専門的知識・技術を学びたい社会人の意欲・向上心を評価します。

● カリキュラム・ポリシー

【教育課程編成の基本方針】

診療放射線学部では、ディプロマ・ポリシー（DP）に掲げる能力を体系的に修得できるよう、次の方針に基づき教育課程を編成する。保健医療専門職として、科学的かつ倫理的な実践力を備え、地域・国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

1. 教養教育科目

豊かな人間性の基盤となる幅広い教養と知識を身につけ、人間理解や科学的根拠への価値付けの基礎を築くことを目的に、4 学科目群、34 科目を配置する。

2. 専門基礎科目

医学・生命科学・放射線科学など、診療放射線学の基盤となる知識と専門職としての態度を修得するため、3 学科目群を編成し、26 科目を配置する。

3. 専門科目

診療画像技術、放射線治療技術、放射線管理計測等に関する専門知識を段階的・体系的に学び、保健医療チームの一員として必要な実践力と倫理性を育成する。6 学科目群、49 科目を配置する。

4. 保健医療専門職共通専門科目

看護学部と連携し、保健医療専門職として共通に求められる知識・技能・態度を涵養する 5 科目を配置する。

【教育・学修方法に関する方針】

1. 段階的・体系的な専門力の育成

診療放射線学の基礎から応用までを、理工学と医学の融合的視点で段階的に学修できるようカリキュラムを体系的に編成する。1・2 年次に教養教育科目および専門基礎科目、2～4 年次に専門科目、4 年次に保健医療専門職共通専門科目を重点的に配置し、専門性と実践力の育成を図る。

2. 対象との関係性・倫理的実践を重視した教育

「診療放射線技師と人権擁護」や「相互行為展開論」など、対象となる人間との関係性や医療倫理を学ぶ授業を配置し、人間の尊厳に配慮した態度と倫理的判断力を育む。

3. 臨床現場を意識した実践的教育

放射線画像診断や治療に携わる診療放射線技師の臨床的判断力を育成するため、講義・演習・実習を通して知識・技能・態度の統合的な修得を図る。また、実習前には模擬患者やシミュレーターを活用した段階的な技能演習を実施する。

4. ICT・シミュレーション技術の活用

学修マネジメントシステム（LMS）やオンライン教材、放射線撮影・画像解析ソフ

トウェアなどの ICT・シミュレーション教材を活用し、自己学修の支援と学修効果の向上を図る。

5. アクティブ・ラーニングの推進

事例検討、グループ・ワーク、ロールプレイ、プレゼンテーション等を組み合わせたアクティブ・ラーニングを推進し、課題発見・解決型学修とチーム医療における協働スキルを育む。

6. チーム医療教育の実践

看護学部との合同授業「保健医療チーム連携論」などを通じて、専門職間の相互理解を促進し、チーム医療における役割認識と協働実践能力を育成する。

7. 臨床経験豊富な教員による少人数教育

少人数教育により、教員が学生一人ひとりの進捗と習熟度に応じた丁寧な指導を行い、実践力と倫理性を兼ね備えた診療放射線技師の育成を図る。

8. 修学ポートフォリオによる到達度の可視化

各学生が DP に対する自らの達成度を記録・評価できるよう、修学ポートフォリオを活用する。卒業時には学生の評価と教員の評価を照合し、自己理解とキャリア形成に役立てる。

【学修成果の評価方針】

1. 多面的・総合的な評価の実施

授業目標に対応した期末試験、小テスト、レポート、プレゼンテーション、実技試験、グループ・ワークの成果などを組み合わせ、知識・技能・態度を総合的に評価する。

2. 形成的評価と総括的評価の併用

学修プロセスにおける到達度を把握するための小テストやフィードバック（形成的評価）と、学修成果を総括的に把握する試験や課題（総括的評価）を併用し、学生の成長を多角的に捉える。

3. ルーブリック評価と自己評価の導入

到達目標に対応した評価基準（ルーブリック）を事前に提示し、学生が自己評価と教員からのフィードバックを通して学修の質を高められるよう支援する。

4. GPA 制度の活用と学修意欲の促進

GPA 制度を用いて、学期ごとに成績を数値化することで、学生の学修状況を可視化し、学修意欲を喚起する。

5. シラバスへの評価基準の明記

各授業のシラバスにおいて、評価方法・評価基準・成績との関連性を明記し、学生に評価の透明性と納得性を保証する。

6. 異議申し立て制度の整備と評価の信頼性担保

成績評価に対する異議申し立て制度により、教員と学生間の意思疎通を促進すると

ともに、評価の客観性と信頼性を担保する。

● ディプロマ・ポリシー

本学は、大学の基本理念及び教育目標を実現するために、カリキュラム・ポリシーを定めている。体系的な学部カリキュラムを通して、豊かな教養、医学及び理工学に関する高度な専門的知識、人間に対する深い理解とコミュニケーション能力を備えた保健医療専門職を養成している。卒業に際して、カリキュラム・ポリシーが定める特性を学生が身につけたかを卒業要件及び取得単位で判定し、学位を授与する。

以下に診療放射線学部学生が卒業までに身につけるべき内容を示す。

1. 幅広い教養、国際性、倫理観、コミュニケーション能力を修得することで、人間及び人類文化、並びに群馬県及び県民に対する理解を深めることができる。
2. 人間の発達と健康に関する医学・生命科学的知識、放射線科学現象と技術に関する理工学的知識を修得し、あわせて専門的態度を身につけることができる。
3. 診療放射線技術、画像診断、診療画像技術、医療画像情報、核医学検査技術、放射線治療技術、放射線管理計測に関する専門的知識を修得するとともに、診療放射線技師の役割と態度についての理解を深め、保健医療専門職の一員としてチーム医療を通して社会に貢献できる。